opusdei.org

## 属人区長のメッセージ(2020年4月1日)

聖週間を間近に控え、この困難な時にあたり、フェルナンド・オカリス神父は、私たちの救いであり希望である十字架のキリストを見つめるよう招きます。

2020/04/01

愛する皆さんへ。イエスが私の子ど もたちを守ってくださいますよう に! 聖なる過越しの三日間が近づいてき ました。それは、神の私たちへの愛 という偉大な神秘について、典礼を 通じて観想する日々です。パンデ ミックのために世界中が苦しみにあ る今、十字架に釘付けられたイエ ス・キリストを幾度も見つめましょ う。教皇様が3月27日に私たちに考 えさせたように、遭難を防ぐ救いの 錨を、主の聖十字架に見るようにし ましょう。そこからイエスは苦しみ の意味を照らし、主の恩恵があれ ば、私たちは喜びを失わないことに 気づかせてくださるのです。さら に、私たちは何度もそれを取り戻す ことができます。Gaudium in Cruce!(十字架おいて喜び!)

ここ最近、私たちは、人間の連帯感が、特に愛徳によって包まれているとき、他者への寛大な奉仕として注がれることを目の当たりにしています。病者のベッドのかたわらで、スーパーマーケットのレジにおい

聖パウロが書いているように、キリストは私たちの平和(エフェソ2,14参照)なのですから、不安や恐れが私たちの平和を奪うことがありまる、私たちが置かれている多少なりに対する神のでで、大いとも、対しまりに対する神はもっとが表しまりませる。という。誰もお見捨てにはなりましませてリアが私たちに思い出させ

ています。「困難のただなかで、どれほどの信頼、どれほどの憩い、どれほどの熱観を与えてくださることでしょう。すべてをご存じで、なんでもお出来になる御父の子どもであることを感じさせてくださるのです

(手紙、1959年1月9日)。私たちの力だけによるのではなく、なによりも主による安心感によって、一人ひとりは、喜んで自己の才能をもって他者を助けることができるでしょう。それは、どんな時も、苦しみと涙とも両立することでしょう。

テクノロジーが提供する機会を上手 く使って、教皇様の聖週間の典礼に 従うことを勧めます。私も、今後、 ウェブサイトを使って、挙行される 諸神秘についての考察を皆さんに届 けたいと思います。こうして、共に 祈り、より一致するためです。

心からの愛情を込めて皆さんを祝福 します

PDFダウンロード(スペイン語)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokunjinkucho-messeji-2020-4/(2025/12/18)